

夢科・白樺高原 レイクリゾート構想基本方針 ～日本を代表する象徴的なレイクリゾート創生への挑戦～

1.はじめに

●基本方針策定の背景と目的

夢科・白樺高原は、夢科山やハケ岳連峰の西麓に広がる標高1,200～1,800メートルの高地。夢科湖・白樺湖・女神湖の三つの湖が点在し、良質な自然や歴史・文化に恵まれたエリアです。戦後の高度成長期、3湖を軸にそれぞれに観光開発が進められ、首都圏や中京圏の避暑・保養地として発展し、人口6.3万人※1の茅野市と立科町に、2023年には年間450万人※2の観光客や避暑客が訪れるようになりました。この中には外国人も含まれ、外国人観光客の数は年を経ることに増え続けています。

この都市部や海外との交流を「新しい発想」で発展させるため、茅野市と立科町は令和4年7月、「レイクリゾート構想」を提唱しました。これは夢科・白樺高原において「日本を代表するレイクリゾートの象徴的なエリア」を創生していくことを目指すものです。

構想の実現を目指し、エリアを越えて民間事業者、観光協会や土地所有者・管理者等の複数の関係者が集まり、令和6年6月に「レイクリゾートデザイン調整会議」を設置、約10カ月間にわたり、議論を重ねてきました。

本計画は、その成果を「レイクリゾート構想基本方針」として取りまとめたものです。レイクリゾートは、「穏やかさ」や「寛容さ」など湖の本質的な価値を活かし、一人ひとりが思い思いの時間を過ごせる場所です。夢科・白樺高原レイクリゾートの価値を具現化し、エリア全体の未来に向けた指針として、より多くの関係者と共有しながら、夢科・白樺高原が先駆けとなって世界に誇る日本らしいレイクリゾートを創生していきます。

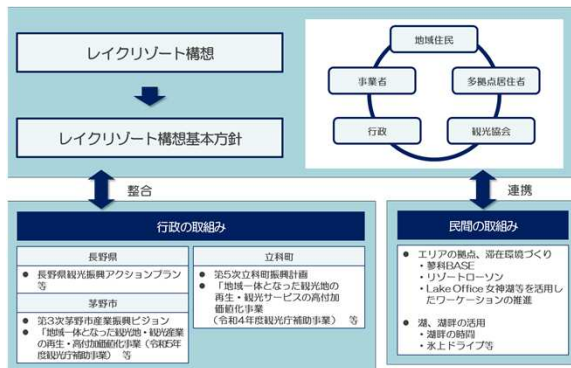
※1 令和2年国勢調査

※2 令和5年観光地利用者統計調査結果（茅野市（夢科、白樺湖）、立科町（夢科牧場、夢科山、東白樺湖）の延利用者数）

●レイクリゾート構想基本方針の位置づけ

本方針は、既存の民間主導の取組みと連携しながら、これからのレイクリゾートの未来を具体化し、エリア全体の価値を高める指針となるものであり、別荘客・多拠点居住者、地域住民・観光事業者、観光客といったレイクリゾートに関わる主体がこの方針を共有しながら、それぞれ、また共同で地域づくりを進めていくために策定しました。

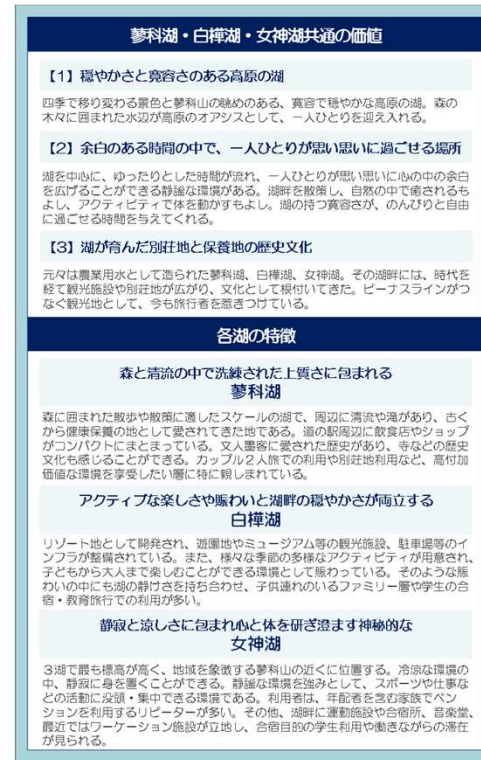
各行政の計画、既に動き出している民間の取組みと連携・整合を図り、公民の連携を強化していきます。



2.夢科・白樺高原について

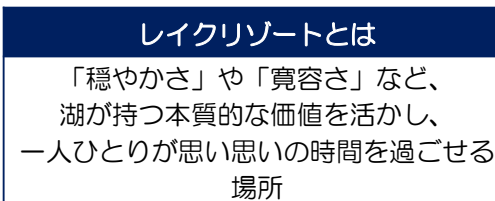
●3湖共通の価値と特徴

夢科湖・白樺湖・女神湖の三つの湖が共通して有する本質的な価値と、各湖特有の機能や性格、概念図を整理しました。



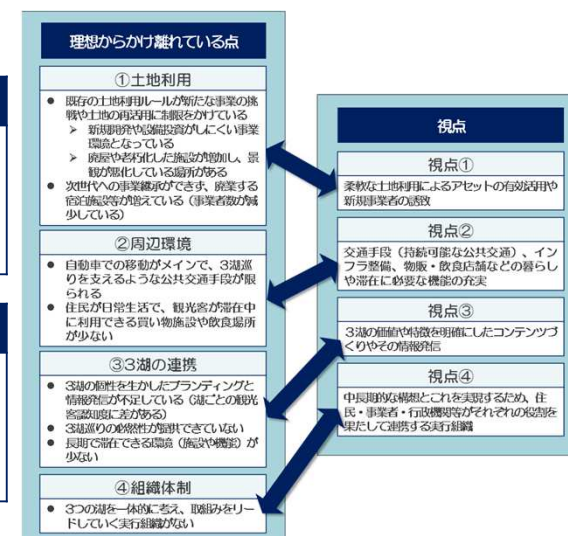
3.ブランドコンセプト（理想の姿）

理想の実現に向けて、理想からかけ離れている点と、それに対する必要な視点を整理しました。



ブランドコンセプト（理想の姿）

それぞれに豊かなライフスタイルを描けるレイクリゾート
～ おかえりなさい、心満ちる高原の湖畔へ ～
Welcome home to your lakeside retreat



4.レイクリゾート実現のための施策

●具現化の方向性

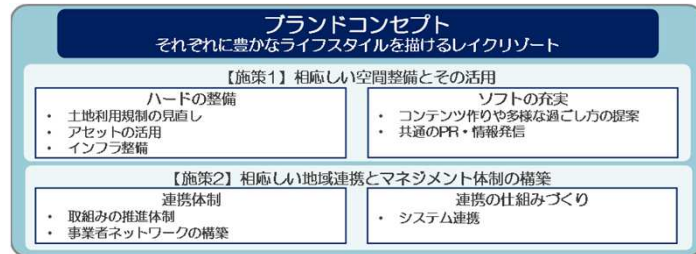
いつでも、思い思いにくつろげる湖畔の多様な過ごし方を追求する。

夢科湖・白樺湖・女神湖の3湖は、それぞれ異なる魅力を持ちながら、「穏やかさ」や「寛容さ」といった湖の本質の価値を共通して有しています。その3湖が連携することで、一つの湖だけでは生み出せない豊かさや深みを提供し、住む人と訪れる人の多様なニーズに応えられる「レイクリゾート」を目指します。そのために、滞在を支える環境を整え、どの湖でもくつろげる空間と多様な過ごし方を各主体で、また共同して追求していきます。



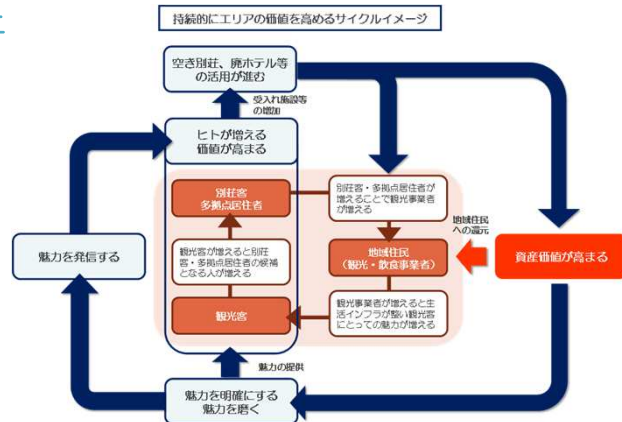
●施策の全体像

このエリアのブランディングを進めていくためには、湖の特徴と価値を活かした空間整備と活用の推進、また、その運営を担っていく体制づくりが必要です。以下に、本方針にて実施を検討していく施策の全体像を示します。



●持続的なブランド力の向上

ブランド力とはこのエリアが持つ価値であり、供給側が一方的に表明するものではなく、地域住民、別荘客や観光客といった受益者の評価によって高められていくものです。受益者の感性やニーズを的確に把握しながら慎重かつ大胆に施策を進めることで、それを享受する人々の評価が高まり有形・無形の資産価値が高まる、さらに施策を進める、そういった循環により持続的にエリアの価値を高めていくことを目指します。

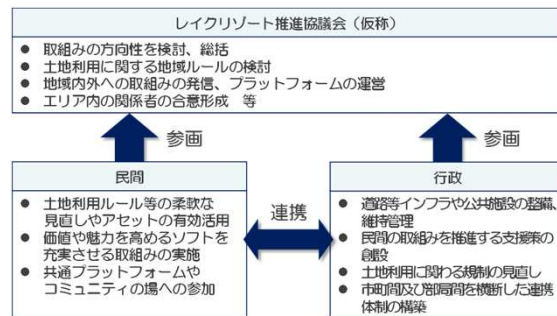


5.構想実現に向けた役割分担

レイクリゾート構想の実現をするためには、行政・民間がそれぞれ責任と必要な役割を持ち、公民連携して取組みを進めていく必要があります。

エリア全体の方向性を「レイクリゾート推進協議会（仮称）」にて検討し、行政は組織内を横断した連携や公共施設の整備など、民間は主体的に構想実現に向けた取組みを進めていくよう努めていきます。

なお、取組みの推進に必要な財源は、外部からの投資を積極的と呼び込むための民間投資の導入、国や県等の補助・支援制度の活用、長野県において今後導入予定の宿泊税の活用などを「レイクリゾート推進協議会（仮称）」において検討していきます。



【参考】施策の具体的な内容

●【施策1】 相応しい空間整備とその活用

- ハードの整備**
 - **土地利用規制の見直し**
【土地利用の方針】
土地利用規制の関係者の合議に基づく柔軟な運用により事業環境を整える。
【ルールの見直しに関わる関係者協議】
土地利用のルールの改定、運用見直しに関する継続的な関係者の協議の場を設置する。
【規制の見直し検討】
各種規制などについて、見直しの可能性について考える場を設置し検討を進める。
 - **アセットの活用**
【有効活用の取組み推進】
新規事業者の出店促進に向けたチャレンジショップ、金融機関等と連携した事業者への経済的支援、土地・別荘地の継承に向けたコミュニティの場づくり等を実施する。
【老朽化した施設の改修や撤去】
各種補助制度等を活用しつつ、湖周辺に存在する廃ホテル、廃別荘等の撤去や老朽化した観光施設の改修により景観を向上させる。
 - **インフラ整備**
【交通課題の解決】
・ エリア内の利便性向上に向けて道路整備を行う。
・ 地域や観光客の利便性を向上させるため、既存の公共交通等と連携した新たなモビリティサービスやMaaSの導入を検討する。
【空間の質の向上】
空間の質を向上させるため、木の植栽等による修景、デザインコードの作成、桟橋、ベンチなどを設置する。
【生活インフラの整備及び生活の質の向上】
・ 飲食店や日用品販売店など、地域住民が生活しやすい、観光客等が滞在しやすい環境を整える。
・ 観光客へのマナー啓発など、オーバーツーリズム対策を推進する。
・ 情報と交流の拠点を各湖に設置し、地域住民や観光客がつながる場を提供する。
- ソフトの充実**
 - **コンテンツ作りや多様な過ごし方の提案**
【3湖を巡るコンテンツづくり】
・ 各湖の特徴を活かしたコンテンツを醸成し、観光客、地元住民、別荘客それぞれが3湖を巡るきっかけをつくる。
・ エリア内での消費額や回遊の増加を目指し、地域通貨やポイントシステムの導入を検討する。
【長期滞在に向けた多様な過ごし方の提案】
3湖それぞれの良さを享受してもらうため、様々なライフスタイルに対応して時間消費を楽しめるようなコンテンツや体験を醸成する。
 - **共通のPR・情報発信**
【レイクリゾートエリアとしてのPR】
・ エリアの価値と特性を表した統一のネーミング、ロゴ、サイン計画等を検討する。
・ フォトコンテストやスポーツイベント、MICEの開催・誘致を検討する。
【情報発信】
・ 全国に先駆ける「レイクリゾート」エリアとして、積極的な発信を図る。
・ 地域住民や別荘オーナー、ホテル事業者等を対象に、レイクリゾートのブランドコンセプトを浸透させるインナーブランディングを推進する。
・ エリア内の飲食、アクティビティ、観光資源などを記載したレイクリゾートマップを作成し、各宿泊施設や観光協会等で配布する。

●【施策2】 相応しい地域連携とマネジメント体制の構築

- 連携体制**
 - **取組みの推進体制**
【レイクリゾート推進協議会（仮称）の設置】
・ 官民の関係者が集まり、地域の方向性や取組みを議論する場としては、「白樺湖活性化協議会」が既に存在する。今後は、夢科湖周辺の関係者に加え、「レイクリゾート推進協議会（仮称）」として「白樺湖活性化協議会」を発展させ、官民連携して取組みを推進する。
・ また、ハードやソフトの各種の取組みから生まれる湖畔の風景に対して、トータル的にマネジメント・検証をする仕組みを構築していく。
 - **事業者ネットワークの構築**
【エリアを超えた交流の場の創出】
地元の住民や観光事業者に加え、別荘客・多拠点居住者や観光客なども気軽に参加できるコミュニケーションの場を設ける。
- 連携の仕組みづくり**
 - **システム連携**
【共通プラットフォーム等】
・ このエリアのライフスタイルに共感した方が参加し、リピーターやファンに育ててもらえるプラットフォームを構築する。
・ モビリティ、アクティビティ、観光ツアー、宿泊、物件情報などの案内や予約ができる共通のプラットフォームwebサイトの構築やエリアPMSの導入を検討する。
・ 移動手段の確保やコミュニティ活動の推進を目的として、事業者間の連携によるシェアリングエコノミーの導入を検討する。
【広域の観光案内】
3湖の情報を集約し、来訪者のニーズに沿った提案を行う3湖の総合案内（アクティビティセンター）の各湖エリアの拠点への設置を検討する。